

要約カードをつくろう

小5/口はありません。こうほを見て、要約を自分で1文に書きましょう

5 / 5

なまえ

ひづけ

こうほの語はどれも本文に1回だけ出てきます。この紙は要約カードの口がありません。下の型に合わせて、要約を自分で1文に書きましょう。

海の水から塩へを読んで、答えましょう。

- ① 海べで水をなめると、しょっぱい味がする。
- ② その味のもとが、水にとけているものである。
- ③ 海水を浅い池に引き入れ、広げてためる。
- ④ 池の底は平らにならし、深さをそろえておく。
- ⑤ 風にさらすと、水が少しずつ減っていく。
- ⑥ 水だけが空気中へ出ていき、とけていたものが残る。
- ⑦ 日光が、池の水をどんどん減らしていく。
- ⑧ 風が強い日ほど、水の減り方が早くなる。
- ⑨ やがて白いつぶが底にしずみ始める。
- ⑩ つぶを集めてかわかすと、料理に使う塩ができる。
- ⑪ にがりおよび液も、このときに取り出される。
- ⑫ たとえば、しめった日が続くと作業は進まない。
- ⑬ 雨がふれば、ためた水はうすまってしまう。
- ⑭ 晴れた日が多い土地ほど、この方法に向いている。
- ⑮ 海に面した平らな所が、昔から作り場に選ばれてきた。
- ⑯ きかいを使う今の工場でも、もとの考え方は同じである。
- ⑰ 海めぐみが、毎日の食たくに運ばれている。

こうほ（この中から3つえらんで1文を書く）

雨

塩

液

土地

工場

海水

日光

めぐみ

要約を、下の型に合わせて1文で書きましょう。

型（ ）は、（ ）によって、（ ）になる。

この要約に入れなくてよい文のばんごう

「たとえば」で始まる文は、くわしい例やつけ足しです。

いちごドリルプリント

つづきの無料プリント
「読解プリント」のプリント一覧がひらきます



要約カードをつくろう【こたえ】

小5/口はありません。こうほを 見て、要約を 自分で 1文に 書きましょう

5 / 5

なまえ

ひづけ

赤い線を ひいた 文に、ぬき出す語が 1回だけ 出てきます。
書き入れた語が 本文と 同じ書き方（送りがなも同じ）なら ○。

海の水から塩へ

入れなくてよい 文 … ⑫

- ① 海べで 水を なめると、しょっぱい味がする。
- ② その味のもとが、水にとけているものである。
- ③ 海水を浅い池に引き入れ、広げてためる。
- ④ 池の底は平らにならし、深さをそろえておく。
- ⑤ 風に さらすと、水が 少しずつ 減っていく。
- ⑥ 水だけが空気中へ出ていき、とけていたものが残る。
- ⑦ 日光が、池の水をどんどん減らしていく。
- ⑧ 風が強い日ほど、水の減り方が早くなる。
- ⑨ やがて白いつぶが底にしずみ始める。
- ⑩ つぶを集めてかわかすと、料理に使う塩ができる。
- ⑪ にがりとよばれる液も、このときに取り出される。
- ⑫ たとえば、しめった日が続くと作業は進まない。
- ⑬ 雨がふれば、ためた水はうすまってしまう。
- ⑭ 晴れた日が多い土地ほど、この方法に向いている。
- ⑮ 海に面した平らな所が、昔から作り場に選ばれてきた。
- ⑯ きかいを使う今の工場でも、もとの考え方は同じである。
- ⑰ 海のめぐみが、毎日の食たくに運ばれている。

要約カード

海水

は、

日光

によって、

塩

になる。

□には、こうほから えらんだ 語を 左から 順に 入れる。

できあがる要約 … 海水は、日光によって、塩になる。

⑫は、しくみを くわしく 言いかえたり つけ足したり している 文だから。

まるつけの ポイント

3つの語が そろって 入っていれば ○。順番が ちがうと ×。

言いかえた語（「海水」を「水」など）は ×。本文の 書き方どおりに 写す。

型の 言葉と 語が 順に つながった 1文なら ○（句点まで 書く）。

⑫のように「たとえば」で はじまる 文は、くわしい 例や つけ足しなので 要約に 入れない。